

頑張る

# 農業法人

株式会社お茶の木野園は、宇治茶産地の南山城村北大河原地区で家族で築き上げてきた茶の経営を後世に引き継ごうと、木野正男さんが2012年12月に設立した。

「経営には目標を掲げることが大切」と考え、「茶作りに終着駅はない。毎年が始発駅」を座右の銘に良質な茶作りにまい進し、数々の茶品評会で農林水産大臣賞を受賞。今でも研さんを続け、常に高みを目指している。

同村は茶農家94戸、約290畝で煎茶やてん茶800トを生産する。三重県出身の木野さんは大阪の大手電機メーカーに勤務していたが、24歳の時、妻の怜子さんの実家が営む茶業を継ぐことを決意した。

当時、同村の高山ダム建設のため立ち退きを余儀なくされ、代替の農地で初めての茶作りに取り組んだ。「いつの日か村で一番の茶を作る」と自身に誓い、京田辺市の茶匠・山下壽一さんに学び、毎日茶園に入り、茶葉との対話を心掛けた。

土づくりは、廃屋となった屋根根のかやを有機質として大量に投入した。5年目で茶が取れた後は、当地の気候や土壌に合った品種の選定に試行錯誤を繰り返して、併せて加工技術も身に付けた。

茶の生産に取り組み始めて11年目の1981年には、府茶品評会で農林水産大臣賞に輝いた。その後は、全国茶品評会で1回、関西茶品評会で3回、府茶品評会で4回の

南山城村

## (株) お茶の木野園

きれいに整備管理された茶生産で多くの大臣賞を受けた木野さん(右)と妻の怜子さん(中)、娘の友美子さん



### 家族経営継承めざす

農林水産大臣賞を受賞。

「窒素、リン酸、カリ

代表取締役の木野さん

に次ぐ四つ目の要素は家族」と、確立した家族経営の継承を目指し法人化

の他、怜子さんと娘の友美子さんが役員となり、

製茶期にはパートタイ

3畝、煎茶2畝、両加工

施設を保有し、J A京都

マ16人を雇用する。

同社の経営は、てん茶

南山城村北大河原七尾

鳥62。電話110743

## 売れる茶へ挑戦続く

やましろに出荷する。人気の煎茶は全国各地に顧客を持ち、個別にも販売する。

てん茶加工施設では、地元茶農家5戸からの製茶受託を行う他、高齢化で増えてきた休耕茶園も引き受けている。全ての茶園で乗用摘採機が入れるよう整地して改植を行い、今年には宇治茶GAP(農業生産工程管理)を実践する中、5月上旬から摘採を始める。

木野さんは「消費者が求めるリーフ茶を製造しなければならぬ難しい時代に入った。茶業者と情報を共有し連携することが重要。産地の若い生産者が目標をもつことができるよう売れる茶作りへの挑戦を続け、法人経営を軌道に乗せたい」と努力を惜しまない。

▽法人所在地11相楽郡南山城村北大河原七尾鳥62。電話110743(93)0172。